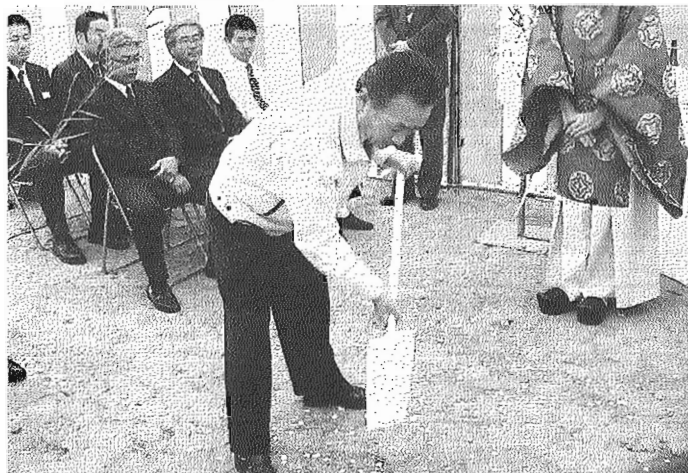


鹿児島市中山東土地地区画整理方式

有村・平床JVで施工



無事完成を祈り、鋤入れの儀を行う東社長
＝鹿児島市の現地で

鹿児島市中山東土地地区画整理(一事業)は5日、鹿児島市画整理組合(玉利賢一理)の現地で同土地地区画整理の安全と完工を祈念した。事業の起工式を行い、関係者多数が出席して工事の安全と完工を祈念した。神事では、祝詞奏上などに続き、玉利理事長が鋤入れの儀、廻光一社長(株誠和)が鋤入れの儀を行い、最後に施工業者を代表して東恒己社長(株有村建設)が鋤入れの儀を力強く実施。次いで、玉利理事長をはじめ、設計業者の竹之内英多支店長(株キョウトク鹿児島支店)、東社長、平床均社長(平床建設)らが神前に玉串を捧げて工事の無事故無災害を祈願した。同地区は環境良好な一戸建てを主体に低層低密度住宅地として計画。施行面積は約1.66ヘクタール、計画戸数40戸(計画人口140人)。施行区域は、同市中山1-2962-12外29筆で、鹿児島市中心部より南へ約800m、JR谷山駅より北へ約2.25km、指宿スカイライン中山インターより東へ約2.25kmに位置し、大型団地接合部3丁目の西側に隣接する。計画によると、生活街路(約600m×6m)、公園・緑地(1カ所)などを設置する。完成は17年9月頃を予定。なお、設計はキョウトク、施工は有村建設・平床建設JVが担当。神事を終え、柿元清春同組合事務局長は「まず安全第一で施工をお願いするとともに、地域との融合調和の中で、まちづくりを図っていきたい」と抱負を述べた。



地材地建等で意見を交わす出席者
＝川内市の川内建設会館で

川薩建築団体と意見交換

気候等に合う住宅を

さつま地区
林材協会

8日の「木の日」関連行事の一環でさつま地区林材協会(早瀬廣紀会長)は4日、川内市神田町の川内建設会館で川薩地区建築団体と意見交換した。テーマは①近年の住宅建築について②国産(地域産)材の利用について③地材地建の取り組みと今後の需要拡大対策について。司会は大迫恵典川薩農林事務所次長。出席者からは「住宅の高気密・高断熱乾燥材が求められているのは分かる。しかしすべて乾燥材100%は無理。乾燥材を求めるなら集成材しかない。含水率がどうのこうのとこのまま議論が進めば、むしろ県産材の消費は減ることになる。」「国は乾燥材の方向で動いているのは間違いない。しかしクリアできる工場があるのだろうか。木材乾燥セミナーで国の専門家(大学教授)は100%乾燥材で持っていく、という考え方はしていないようだ。その辺りがきちんとしていないのでは。」「かごしま材を使うのであれば、国と対立しても鹿児島県の気候・風土に合った住宅の提案をすべきではないか。」「かごしま材の認証ブランドが先行し過ぎて、曲り材の多いかごしま材をどう利用するかの議論が不足しているのでは。もっと基本に戻って検討してみてもどうか」などの意見が相次いだ。

最後に、さつま地区林材協会顧問で川薩農林事務所の串崎明義所長が、①公共施設等木造化・木



写真に納まる参加者
＝祁答院町の大村報徳学園で

宮之城支部青年部

大村学園にフェンス設置

会員20人は5日、薩摩郡祁答院町下手の社会福祉法人大村報徳学園(平林徳子園長)で園内の危険箇所フェンスを設置したり、老朽化したプラスチックプールの解体・撤去や倒木の処理、草刈りなどの奉仕作業をした。同園駐車場で打ち合わせを行い、松田部長(松田建設)が「奉仕の気持ちで頑張ります」と挨拶。1班(末吉満班長・末吉吉士木)、2班(川畑康昭班長・川畑建設)、3班(平島賢一班長・南益山建設)に分かれて作業を実施した。吉村鐵之助副園長は「ボランティア作業にこんなに大勢で来ていただき本当に感謝しています。実は職員で子供たちの危険防止のためにフェンスを取りつける準備をしていました。専門の方々にお手伝いすることができ本当にありがたいことです」と話していた。また同活動に南入来生コンクリート、北薩生コンクリート(株)も応援、生コンを提供した。

溝口駿氏(創建築計画)の作品

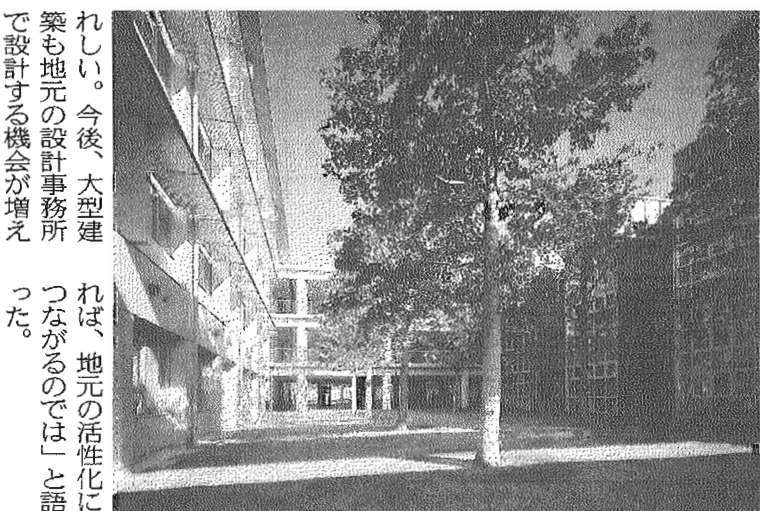
日本建築学会はこのほど、溝口駿氏(創建築計画研究所)の建築作品・県立開陽高等学校を「作品選集(作品の論文集)2005」に採用することを決定した。なお、同作品は作品奨励及び学会賞の候補に挙がっている。同学会では、年に1回、全国から多数応募

県立開陽高校を採用

日本建築学会、作品選集2005

溝口駿氏

表された作品のほとんどが大都市からの選出で、九州からの選出は極めて少ない。今回応募した県内初の単位制高校である開陽高校は、「多様な履修形態による頻繁な教室移動に対応するため、明瞭な空間の実現」や「緑あふれる中庭の森や光庭により自然を積極的に取り入れ、教育環境にゆとりと潤いを与える」などをコンセプトとしていることが高い評価を受けた。溝口氏は、「こつこつと評価を受け、大変うれ



緑豊かな森を演出している県立開陽高校中庭



本立て作りに挑戦する児童ら
＝桜島町の桜峰小学校で

桜峰小でジュニアマイスター

児童35人が作品づくり

16年度「ジュニアマイスター教室」が5日、鹿児島郡桜島町の桜峰小学校(中島修校長、児童111人)で開かれ、優れた技能を持つ技能士の指導の下、同校の5、6年生35人がガーデニングや本立て、手提げ袋作りに挑戦した。同教室は、県内の小中学生を対象に日本の技能・文化を伝承しようとして、県技能士会(森山清隆連合会長)の協力の下、平成9年からスタートしたもので年に10校を訪問し、これまで4000人を超える子供たちが優れた職人の技を習得している。

この日は、建築大工・和裁・園芸の3部門に鹿児島建築工友会、県園芸装飾能士会等の会員らが指導に当たった。体育館で行われた開会式では島子修教頭が「優れた職人の技を学び、素晴らしい作品を作ってください」と子供たちを激励した。その後、それぞれの教室に移動し会員らのアドバイスを受けながら、楽しそうに作品づくりに挑戦していた。